

第5回 SACLA 選定委員会 議事概要

1. 日時

平成24年7月30日(月) 13:30~15:45

2. 場所

東京ステーションコンファレンス 602-A (東京都千代田区丸の内)

3. 出席者 (敬称等略)

- 委員 坂田誠(委員長)、雨宮慶幸、太田俊明、諏訪牧子、武田晴夫、
月原富武、豊島近、菱川良夫、三間罔興、元廣友美
- JASRI 白川哲久、熊谷教孝、野田健治、後藤俊治、矢橋牧名、
大野英雄、鈴木昌世
- オブザーバ (文部科学省量子放射線研究推進室) 原克彦、宮嶋克彰
(理化学研究所) 根本光宏、生越満
- 事務局 牧田知子、杉本正吾、坂川琢磨、山下幸二

4. 配付資料

- (1) 平成23~24年度 SACLA 選定委員会委員名簿
- (2) 第4回 SACLA 選定委員会議事概要
- (3) 審議事項
 - ① 2012B期 SACLA 利用研究課題の審査結果について
(詳細資料は本委員会終了後回収)
 - ② 2013A期 SACLA 利用研究課題の公募について
- (4) 報告事項
 - ① SACLA の整備・利用状況について
 - ② 登録施設利用促進機関の連携・協力について

5. 議事

- (1) 開会
 - JASRI 白川理事長より、

- ・ SACLA の施設自体は順調に稼働していること
 - ・ 電力問題に関する運転への影響はなかったこと
 - ・ 文部科学省の委託事業関係課題の取扱いについて、第 4 回選定委員会でメール審議いただいたこと
 - ・ 2012B 期における課題申請の概要（応募課題数、その内訳など）
 - ・ 2013A 期の課題公募について、基本的に従来の枠組みを踏襲するとともに、新たに BL3 の EH5 を利用する課題公募を開始すること
 - ・ 共用法に基づく 3 つの登録機関で連携・協力を進めていること
- 等の挨拶があった。

- ＜本委員会の途中から出席＞原文部科学省量子放射線研究推進室長より
- ・ 今年供用を開始した SACLA を始め、スパコン京、J-PARC の全共用法対象施設が本格的に供用を開始又は間もなく供用開始予定であること
 - ・ これら施設の連携・協力を進めながら有機的に一体化し、世界に例のない新しい研究成果をどんどん創出していただくということをこれからの文部科学省の新しい政策目標として推進すること
- 等の挨拶があった。

(2) 審議事項（以下、◇＝委員長又は委員、◆＝JASRI）

① 2012B 期 SACLA 利用研究課題の審査結果について

SACLA 利用研究課題審査委員会（PRC）委員長である雨宮委員より説明の後、以下の主な意見等があった。

- ◇採否結果は、一般課題や重点戦略課題のバランスが非常にとれたものと思われるが、調整した結果そうなったのか。
- ◇基本的に調整ということではなく、審査の結果である。
- ◇同一申請者による複数課題審査結果において、必ずしも評価が高い課題が採択となっていないものがあるが。
- ◆SACLA 側実験装置の技術的な成熟状況を考慮した結果である。
- ◇今般申請された課題は全部新規課題か。継続課題はどう取り扱っているのか。

◇継続課題という制度は現状ない。2012B 期の課題申請書においては、前期である 2012A 期の実験結果又は準備状況がどうであったか等の記載を求めている。

申請課題の有効期間は当該利用期のみであり、課題申請時に新規か継続かをチェックするような項目はないが、事実上継続的に実施される課題か否かは申請内容でわかる。

各利用期ごとの課題申請は独立したものであり、SACLA PRC では、新規課題と事実上継続的に実施される課題のうちいずれかを優先する等の扱いは行っていない。

なお、成果を論文にまとめる際、複数課題の実施によるものとすることは可能。

◇ビームタイムについて、要求より配分がかなり少ないようであるが、研究実施上問題ないか。

◆当該利用期で複数回実験したいという申請については、ビームタイムにそれだけの余裕がないのである程度削らざるを得ない。但し、2012A 期の結果も踏まえながら、1 回当たりのビームタイム配分は実験に支障を来すことがないよう勘案している。

◇PRC 審査で用いた評価点等の資料も本選定委員会に提示して欲しい。

◆次回より対応する。

◇個別課題審査について、全課題を一人の同じ PRC 委員が審査しないのはどうなのか。

◇各申請課題ごとに 5 人の PRC 委員が総合相対評価を行うことにより、委員ごとの偏差を調整している。なお、一人の委員が全課題を個別審査するのは、分量的にも委員の専門分野的にも実態として困難。

◇採否通知にはどこまでの情報を付記するのか。点数は。

◆点数は出さない。

◇複数の審査結果コメントを設定しており、それを元に採否結果にコメントを付記して通知する。不採択の理由も明記する。

◇特に不採択課題については、今後の申請をエンカレッジするようなコメントを付けるのがいいと思う。

◇複数の基本コメントは、それらも踏まえた内容になっている。場合によっては、必要に応じ各委員の個別評価コメント等を斟酌しつつ加味

する。

- ◇2012B 期から PRC 委員を 5 名増員した。これは、委員自身の専門分野から遠い課題を評価するのが難しいこと等を踏まえての対応である。
- ◇選定委員会として、本審査結果に基づき 27 課題を採択すること及び計 154 シフトを配分することを承認する。

② 2013A 期 SACLA 利用研究課題の公募について

JASRI より説明の後、以下の主なコメントがあった。

- ◆EH5 は SACLA 側の光源から遠いところにステーションがあり、極めて細く絞ったビームを活用できる。課題公募開始は 2013A 期からであるが、できるものについては 2012B 期からテスト的に EH5 を使用した実験を行う予定。
- ◇選定委員会として、2013A 期 SACLA 利用研究課題の公募を承認する。

(3) 報告事項 (以下、◇=委員長又は委員、◆=JASRI)

① SACLA の整備・利用状況について

JASRI より説明の後、以下の主な意見等があった。

- ◇フォルト (=ビームトリップ) はやがて無くなっていくものなのか、あるいは本質的になくなるものなのか。
- ◆フォルトの主な原因は高電圧装置と真空の不調。これらについてはいろいろな改良を行っており、フォルトを減らしている。また、ビームの一層の安定化等を実現するための様々な高度化を、スタンフォードの状況等を踏まえながら、また、密接に情報交換等をしながら、継続的に行っているところ。

② 登録施設利用促進機関の連携・協力について

JASRI より説明の後、以下の主な意見等があった。

- ◇各施設のユーザー数はどの程度か。
- ◆SPring-8は共用ビームラインだけで年間1万人規模。J-PARCは共用ビームライン本数が少ないこと等もあり、おそらくは数百人規模。スパコン京も同程度であろうと思われる。
- ◇ユーザー規模やこれまでの共用の歴史・経験を踏まえると、実質JASRIが連携・協力を引っ張っていくものと認識。
- ◆次回のSPring-8の選定委員会で、まずは2013A期よりJ-PARCとの相補利用を試験的に開始するための審議を行う予定。なお、それぞれの施設は全く別のものであることや、各施設において登録機関が置かれている立ち位置等が必ずしも同じではないこともあり、共通的な解を導くことは難しいが、個別のベストプラクティスを積み上げて少しずつ連携・協力を推進していきたいと考えている。
- ◇こういう話はトップダウンの話として重要であると認識しているが、ボトムアップの観点、すなわち各学会ベースでの連携をサポートするようなアクションも重要であろう。

(4) その他（以下、◇=委員長又は委員）

- ◇選定委員会の審議においては、審査のプロセスを議論することが重要であるので、委員長判断により、1年間の実績を踏まえて次回の委員会において議題として取り上げることとした。

以 上